

医師を守る、地域を守る。

大切な命を守る医療。
全国的に地方の病院勤務の医師が不足している中
県立病院をはじめとする市内の病院も医師不足が深刻な状況です。
中でも県立千厩病院の医師数の減により
市内東部の医療環境が急激に悪化しています。
医師を守ることは、地域を守ること。
本号では、地域医療の現状をお知らせするとともに
医療を支える医師を守るために必要なことを考えます。



▼県立千厩病院待合室

1 地域医療の現実を知る

勤務医不足により休診や閉鎖が相次ぐ地方病院。
岩手では地域医療の中核を担う県立病院の医師数が減少し、本市の医療環境も悪化しています。

医師不足と制度改正 過重労働により 疲弊する医療現場

現在、全国の医師数は約28万7000人(平成20年末現在)。その総数は年々微増しています。日本は人口10000人当たりの医師数が2.1人と、OECD(経済協力開発機構)30カ国の中で、27位。日米欧の主要7カ国(G7)の中では最下位と、国際的には極めて少ない水準です。現場での医師不足、特に地方病院の勤務医の不足は深刻で、診療科目の休診や閉鎖を余儀なくされている病院が増えています。

原因の一つが、平成16年から始まった「新医師臨床研修制度」の導入。それまでは大学卒業後、医師の大半が大学の医局に入局して研修することが常態化していました。個人で研修先を自由に選択できるシステムに大きく変わりました。

このため新人医師が大学病院を離れる状況が生じ、大学が医師不足になり、大学はこれまで各病院に派遣していた医師を引き上げ。そのことで、地方病院の医師が不足する、という事態が生じました。

医療の高度化、専門化、患者ニーズの高まりにより、医師の仕事量は年々増え続けています。そのような中、「とりあえず安心」と大病院を利用したり、安易な夜間や休日の救急病院の利用などにより医師の勤務状況はますます過酷に。過重労働により退職する医師が増加し、残った医師にますます負担がかかる。という負のスパイラルが、医師不足を招いているといわれています。

岩手を支える県立病院 役割分担と連携で 新たな形を模索

山間へき地が多い広大な県土

を有する岩手県。その中で岩手県医療局が運営する県立病院は21病院4地域診療センターからなり、高度で専門的な医療の提供から市町村立医療機関への診療応援、交通事情や医療事情に恵まれない地域での病院や診療所の運営など、大きな役割を果たしてきました。

しかし経常収支が年々悪化。経営改善のため21年2月、県医療局は「県立病院等の新しい経営計画」を策定しました。二次保健医療圏を基本とした役割分担のもと、それぞれの病院機能や特徴を強化することで、医師不足の解消や経営の安定に取り組んでいます。

県立病院の常勤医は、15年度末の535人から、19年度末には507人と、5年間で28人の減少。地域別診療科別の偏りもあり、県北・沿岸部や産科・小児科など救急の呼び出しや医療訴訟の多い診療科に従事する医師が少なくなっています。

3病院で医師が減少 厳しい状況が続く 市内の県立病院

磐井、南光、千厩、大東の4つの県立病院が立地する本市。そのほか、両磐地方では独立行政法人国立病院機構岩手病院、藤沢町が運営する国保藤沢町民病院、医療法人が経営する4つの病院のほか、69の開業医、市が運営する猿沢、室根の両診療所が地域の医療を担っています。

その中で、両磐地方の基幹的な医療機関と位置づけられているのが20の診療科、315床を有する磐井病院。二次保健医療圏の基幹病院として高度で専門的な医療が提供されています。千厩病院は地域の総合的な医療

機関としての機能を担っています。また、磐井・千厩の両病院は24時間体制で救急患者を受け入れています。

4つの県立病院の常勤医師(初期研修医含む)数は、15年度末と21年度末で比較すると、▽磐井病院で46人から61人▽南光病院で15人から7人▽千厩病院で15人から8人▽大東病院で5人から4人と、磐井病院を除き減少。常勤医師の不在に伴い、磐井病院では眼科と呼吸器科が、千厩病院では整形外科、産婦人科、眼科が休診しています。入院ベッド数も、千厩病院で20年度の194床から21年4月には154床に、22年4月には114床と大きく減少しました。

花泉町では17年度まで県立花泉病院が運営されていましたが、18年度から診療所化。本年4月からは民間に移管され、施設内に特別養護老人ホームを併設した診療所として開所しました。

両磐地方の人口10万人当たり医師数は148.7人(18年現在)。全国平均の217.5人、県平均の186.8人をいずれも下回っています。



市内をはじめ両磐地方の広域基幹病院として大きな役割を果たしている県立磐井病院

※二次保健医療圏：入院治療を主体とした医療活動がおおむね完結する区域。なお、一次医療はかかりつけ医を中心とした地域医療、三次医療は先進的な技術や特殊な医療に関するものなどの治療